

戸籍からの除籍、家族、友人知人へ知らせる、必要な人は宗教儀礼的な葬送、これだけのことをすれば、終わると言われています。私は、生き様を語る遺品というものを、綺麗に片づけてあげないと、この世の中を綺麗に終うということにはならないと感じています。

◆孤立する人の増加

現場を見てきて、特に問題視されるのは、部屋の中で1人で亡くなってしまう「孤立死」です。1週間～10日たつたら、夏場は大変なことになってしまいます。虫はわき、臭いもすごいことになり、見る見るうちに自分の顔の色が変わり、ついには、目や耳の穴から、何か出てくる。周りの人にすごく迷惑がかかり、そして、謝ることもできない。天国から自分のこういう状態を見ないといけない人が最近非常に多いです。

ひとりで暮らすことや、「孤独」は悪いこととは思いません。でも、孤立して「人に気づいてもらえない死」が問題なのです。孤立死を減らすのではなく、孤立していく人を減らすことが必要です。最低限何をしないといけないかというと、自分が死んだときに、一両日中に、誰か一人でも、あれ? 吉田君は? と気にしてくれる人を1人か2人つくることです。

◆男性は要注意!

年間で1,500～1,600件の遺品整理の依頼があります。その内200～300件は、何らかの形でここで亡くなったという形跡が残っているものです。男性が圧倒的に多く、全体の7～8割を占めます。高齢者に多いと思われるがちですが、50代の依頼も多いです。

50代後半での孤立死の要因として、男性はリストラがあります。仕事を辞めた後、再就職ができず、家事に参加もせず、それが原因で離婚。部屋にある子どもや嫁さんの写真には埃がたまり、もともとは家族で住んでいたのだろうなというような住まいでの死後に発見される場合です。

男性は、仕事で人間関係を築いているので、退職後は注意しないと、孤立しやすいです。会話が全部仕事の話なので、近所の人と共有できるようなプライベートの話題をあまりもっていない。ちょっと無理して話してみると、仕事の自慢話や武勇伝みたいになってしまい、周りの人に嫌がられる。そういうことで、結局、引きこもるというパターンに陥ってしまいます。

また、多くの男性は、妻が看取ってくれると信じ、それ以外の想定をしないまま1人になってから家事に困り、部屋が荒れ、その状態を見られたくないために孤立してしまうことがあります。

今の自分はどうなのかと、人と比べ、考え、普段は自然にバランスを取っています。人間関係が多いと比較対象が多く、バランスが取れていないときでも気づくことができます。

◆若い人の孤立が問題

今、成人式を迎えた人の50%が20歳まで、恋人がいないという結果が出ています。20%の人が、片思い歴がなく、異性にときめいたことがない。結婚適齢期の男性8割、女性6割はパートナーがいません。10年後を想定すると50%の人は結婚していないでしょう。

昔の結婚の意味は明確でした。女性の経済的「不安」と、男性の生活の「不便」、この「不」



と「不」を持ち寄って、お互いにカバーしていました。今は、女性の経済的不安はなくなり、逆に男性の経済的不安は高まっています。生活の不便だけを持ってこられても困るの、「あなたと結婚する意味はない」となります。

今はお年寄りのひとり住まいが問題になっていますが、若い人の8割がひとり住まいとなり、孤立の割合が高くなります。30年後を考えると、今の常識や家族構成は全く違う考えなっているかもしれません。

今出来ることは、自分たちが若い人たちのために何をするか、何を助言するかを考えて、身をもって示してあげることかもしれません。1人でもいいから近くに友達をもち、人間関係を保って、絶対一人ぼっちになるなど、若い人たちに言うことで、自分たちもしっかりしないといけないなという意識が生まれます。

◆不動産神話の崩壊

最近、子どもに不動産を相続させてはいけないといわれています。その家に住むなら別ですが、相続する相手が他に家を持っている場合、不動産は売って現金にして渡した方が良いでしょう。活用できない不動産は、今や820万戸の空き家問題となっています。

例えば現金300万円と分譲マンションを相続する場合、特に築30年以上の、旧耐震のマンションは、エリアによっては借り手を見つけることが難しく、解体もできず、毎月の管理料と積立金プラス固定資産税がかかります。積立金は平均でも月3万円、10年たつたら300万円では足りません。相続放棄をするならば、知った日から3ヶ月以内に手続きをしないとできません。自分の資産は使い切るか、亡くなる前に、うまく渡すか、息子のために、不動産があるから大丈夫と思っている人は、早急に片づけた方が良いでしょう。

◆何歳まで生きるかを決めておこう

「いつまで生きるか」がはっきりしていたら、漠然と生きることなく毎日が充実します。自分であと何年生きるかを決め、3分の2のお金は残りの人生で全部使う。3分の1は、間違って生き残ったときのために取っておく。3分の2のお金を使って、何をするか。分かりやすく仮に旅行としましょう。行きたい場所が南アフリカ、オーストラリア、韓国、淡路島だったとして、その中で優先順位をつけます。このとき3つ以上予定をつくることがポイントです。1つだけだとやり始めるのを後回しにしてしまうけれど、複数あるとやり切れないから、明日からはじめようとなります。

お金の使い方は、今年、来年、その次と、使う金額を決めてみてください。その金額は絶対に使い切る。誤差は千円単位、1万円以上はダメ。足りなくなったら、翌年から借りてもいいけど、千円単位。これは楽しいし、ものすごく充実し、頭を使います。

旅行から帰ってきたら、誰かに楽しかった話を聞いて欲しくなる。そうすると、自分で考え自発的に動いて体験した話を人に話し、それに影響を受けて、他の人がそうしようとなればいいし、充実している状態でバタッと死ねれば何の問題もない。充実した時間を過ごして、皆さんのが握って離さない貯金を世の中に使ったら、経済的にはものすごくいいわけです。いい社会貢献になります。

あとひとつ、どんな親戚でも離れて暮らしていたら、自分しか知らないことが出てきます。何かあったときに、伝えられるように「おひとりさまでもだいじょうぶノート」を私たちもつくりました。こういったものも、ぜひ書いてみてください。(まとめ:事務局八巻)